

学校法人押野学園
職員クレド

明日も行きたい幼稚園



せんだい幼稚園
児童クラブ





せんだい幼稚園職員クレド

認定こども園
せんだい幼稚園



思いやり・気遣いのひとことを

おはようございます、ありがとうございます、すみませんでした
あたりまえだからこそ、挨拶や思いやりの声掛けは丁寧にしっかりと

保育者が子どもたちや保護者、保育者同士と心が通いあう関係になるためには、日頃のコミュニケーションがとても重要です。その入り口としてあいさつをしっかりとすること、「ありがとうございます」と感謝の気持ちを表すこと、反省すべき点は素直に「すみませんでした」と声に出すことはとても重要です。

園には運営のためにご協力頂いている地域の方、業者の方、理事・評議員の方、などさまざまな方が訪れます。また近くに住んでいる近隣の方々もいらっしゃいます。たくさんの方々のご支援・ご協力があって私たちの仕事は成り立っています。そういった感謝を示す意味でも、園内はもちろん、園の周りであった方にも知っている、知らない問わずに、しっかりとお辞儀をして挨拶をしましょう。（座っている際も可能な範囲で立ち上がって挨拶をしましょう。）

誰かにいつもやってもらっていることでも、それを当たり前と思わず「ありがとうございます」と言葉で表すことが思いやりのバトンを繋いでいきます。感謝の思いや温かい言葉を毎日口にしていくことで、「ありがとう」や挨拶が溢れる子どもたちの環境、温かな気持ちで保育に臨める職場環境を作りましょう。



I wish you are always smiling

せんだい幼稚園職員クレド

認定こども園
せんだい幼稚園



先生と呼ばれる立場として

子どもたちの人生を変えるかもしれない大事な仕事
だからこそ、仕事に誇りをもって自分自身が見本となれるように

保育職に携わる私たちは子どもたち・保護者の方・地域の方などから「先生」と呼ばれる立場になります。それは園内で勤務している時間だけではなく、買い物をしているとき、遠方に出掛けているとき、ちょっと用事を済ませるために車を運転しているとき・・・、どんな瞬間であったとしてもその人のことを知っている周りの方からすると「先生」であることに変わりはありません。

そういった意味では業務中／プライベートにかかわらず、自分のどの瞬間を切り取られたとしても「先生」として相応しい立ち振る舞いをする意識はこの仕事を行う上では欠かせません。

仕事とプライベートでギャップだらけの先生であれば、子どもたちとの信頼関係も揺らぎかねません。交通マナーを守らない、身だしなみがルーズ、挨拶をしない・・・など、プライベートであっても、周りの人々を不快にさせることなく最低限のマナーを守ることは人として当然です。先生である以上、自分自身が子どもたちの良いお手本となれるよう、「先生であること」に誇りをもって仕事や生活に丁寧に臨んでいきましょう。



I wish you are always smiling

せんだい幼稚園職員クレド

認定こども園
せんだい幼稚園



いろいろなことに関心をもつ いろいろなことに好奇心をもつ

子どもたちの何気ない言葉や行為を面白がる
興味や好奇心こそ成長のための基盤

マザーテレサは「愛の反対は憎しみではない、無関心だ」と説きました。目の前で起きている様々な出来事に無関心で「自分には関係ない」と言わんばかりの傍観者だと、目の前の困っている人にも気づけずに終わってしまうかもしれません。

日々の何気ない、見過ごしてしまいそうなことにも、「これはどういう意味なのだろうか」「何が背後にあるんだろう」と新たな課題を発見するようなものの見方が「もっとこうしたほうがいいんじゃないだろうか」という問いを生み、周りの環境を良くしていくことに繋がっていきます。

指示されたこと、与えられたことだけをするのではなく、それ以外のことにも興味や関心を持つことで、個人や組織の視野が広がります。また、子どもの何気ない言動にもしっかりアンテナを張り、その子どもの願いや思いに共感したり、面白がったりすることで、子ども自身がさまざまなことに興味や関心を持ち、好奇心や探求心を発揮していくはずです。



せんだい幼稚園職員クレド

認定こども園
せんだい幼稚園



尊敬や敬意をもって接すること ほめ言葉(いいね)あふれる環境

一生懸命努力している姿を認めあい、そのことへの敬意を
子どもも大人も一人の人として尊重しあう風土を

子どもたちにとって安心できる環境、そして保育者にとって働きやすい環境の基本は良好な人間関係が構築されていることです。社会の中で生きることは、他者との意図的な関わりが重要で、コミュニケーションスキルが欠かせません

保育施設では子ども、保護者の方、職員間などさまざまな相手とのコミュニケーションが必要とされます。そのいずれをとっても、否定的な言葉や陰口、悪口、指示命令口調があふれてしまうと、良好なコミュニケーションが取れないだけでなく、子どもにとって良好な育ちに繋がらないことは明白です。

相手への敬意をもって、まず相手を理解するように意識すること。そして相手を受け入れ、認めることを全員が意識し、「いいね」の言葉であふれる環境にしていくことが重要です。また、言葉だけでなく表情、うなずき、雰囲気などの仕草や態度も言葉以上にイメージを強く印象付ける要素です。私たちは意識的な言葉や態度でポジティブなコミュニケーションの場を作りましょう。



I wish you are always smiling

せんだい幼稚園職員クレド

認定こども園
せんだい幼稚園



身の周りのきれいが 心のきれいを作り出す

「きれいな環境を作る」ことが「きれいに過ごす意識」を作っていきます
破れや汚れがそのままになっているモノ・場所はありませんか？

建物の窓が割れている状況は、犯罪に配慮していない場所という意識を増長させ、犯罪発生率を増加させるという考え（ブロークンウィンドウ理論）があります。この考えに基づき、ニューヨークで地下鉄の落書き清掃を行った結果、地下鉄内での犯罪が大幅に減少した事例もあります。過ごしている環境は人の思考や行動に大きな影響を与えるのです。

これと同様に、園内の小さな汚れや傷を見逃さずに、丁寧な修繕・清掃をする保育者の姿勢が、子どもたちがモノを大事に・大切に扱おうとする姿勢を習慣づけ、それがふるまい（挨拶や礼儀作法）にも影響を与えていきます。

「見て見ぬふり」や「まあいいだろう」という甘さは他の職員にも伝わり、いつしか次第に組織全体に及んでいきます。率先して身の周りをきれいにしていこうというひとりひとりの姿勢が、衛生的な環境だけでなく、前向きに取り組んでいこうという魅力のある職場風土を作り上げていきましょう。



せんだい幼稚園職員クレド

認定こども園
せんだい幼稚園



まずはやってみよう チャレンジする姿勢

どんなにわかっていても行動に移さなければ世の中には届かない。
学んだこと、こうしたほうがいいと思ったことをアウトプットする

私たちの身の周りには「わかっている」けれど「できない」ことであふれています。健康でいるためにはバランスの良い食事を取り、規則正しい生活をするのが大事だということは誰もかがわかっています。わかっているでも行動に移すことは意外に難しいものです。

しかし、どんなにいろんなことを学んだり、理解したりしていても、それを行動に移さなければ頭の中の絵空事に終わってしまいます。保育者は学んだことを実際に形にしたり、行動に移したりすることによって、子どもたちがより成長できる環境を作っていく仕事です。

「苦労や時間などの困難さを乗り越える意志」と「やり続けようという継続力」さえあれば、浮かんできたアイデアを実行することは可能です。うまくいかないかもしれないけれど、とにかくやってみる。知っていることを「やってみる」ことで、より理解が進んでいきます（わかっていく）。その循環が保育や子どもたちの生活をより豊かなものにし、「保育の質の向上」に繋がっていきます。



せんだい幼稚園職員クレド

認定こども園
せんだい幼稚園



自身の成長が 子どもたちの成長に繋がっていく

進みゆく教師のみ、人に教える権利あり（小原國芳氏：玉川学園創設者）
保育を通して自分を知り、自分を成長させていく

保育を行う際には事前準備をしっかりとすることが大切です。しかし、どんなに準備をしていたとしても、想定していなかった子どもたちの言動に戸惑ったり、トラブルが起きたりすることも多くあるでしょう。保育は人と人が関わりあう仕事です。そういった予期せぬ事態を「面白いこと考えるね」と好意的に受け止めるか、「ちゃんと話を聞いてたの?」と否定的に捉えるかはその人次第です。

自分自身の考えや思いは、否が応でも保育という仕事に直結します。良い保育を行う上では自分を知り、自分を成長させていこうという構えが重要です。

場合によってはクレームに対応することもあるかもしれません。自分だけでは気付けなかったことを学ばせてもらうことはとても有難いことです。その学びを保育に活かしていこうという姿勢があれば、自ずと子どもたちも成長していくはずで、学びにはゴールはありません。積極的に学ぼうとする姿勢、いろんなことを吸収していく意欲を忘れずに保育に臨んでいきましょう。